

宇治田原町
観光振興計画
～観光によるまちづくり～

平成28年3月

宇治田原町

住んでよし、訪れてよしの 宇治田原町を目指して



本格的な人口減少時代の到来また少子高齢化の進展などにより、これからの地域の活力の維持向上のためには、これまでに無い「人口減少」を前提とした施策の展開が必要となってきました。

そこで本町では、国の「観光立国の実現」に向けた各種施策の実施や京都府及び府内南部地域協働で進める「お茶の京都」事業の展開等を絶好の好機と捉え、「観光」を一つの手段とし、交流人口の増加による地域のにぎわい創出、活性化を目指し、ひいては町への定住促進に繋げていく施策を進めていくために「宇治田原町観光振興計画～観光によるまちづくり～」を策定しました。

本町は、四方を山に囲まれ、まちの中心部には、東西に田原川が流れ、川沿いには桜をはじめ季節の花々がやさしくまちを彩ります。

また地理的に、京都・奈良・近江への交通の要衝に位置したことから、古くから歴史の舞台にも登場し、そのため現在でも、まちには数多くの歴史・文化遺産が残されています。

これら豊かな自然と伝統、歴史遺産または茶文化により育まれた「宇治田原ブランド」と住民の皆様が持つ「おもてなしの心」により、来る人にも住む人にも「笑顔」が溢れる「住んでよし、訪れてよし」の地域づくり・まちづくりができるものと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、本計画策定にあたり熱心に議論を重ねていただきました「宇治田原町観光振興計画策定委員会」及び「同委員会専門部会」の委員の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。

平成28年3月
宇治田原町長 西谷信夫



目次

1. はじめに	1
(1) 計画をつくる目的	1
(2) 計画の位置づけ	3
(3) 計画の推進期間	4
(4) 計画の推進体制	5
2. 宇治田原町の観光振興にかかる動向	6
3. 宇治田原町の観光の現状と課題	7
(1) 宇治田原町への来訪者の現状	7
(2) 宇治田原町内の資源の現状・課題	8
(3) 住民の意見	10
(4) 宇治田原町の強み・弱みと観光まちづくりの方向性	11
4. 宇治田原町の観光によるまちづくり計画	12
5. 宇治田原町の観光振興計画	13
(1) 観光振興計画の方針（4つの方針）	13
(2) エリア別の方向性	17
(3) 計画の目標と進捗管理について	18
※資料	
○ 用語解説	19
○ 計画策定の経緯	21
○ 計画策定の体制	22



(1)計画をつくる目的

●「観光によるまちづくり」をはじめめる好機の到来

国では、現在主要政策のひとつとして、「観光立国の実現」に向けた政策に取り組んでおり、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」においては、「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」開催を見据えた、観光振興やインバウンドの飛躍的な拡大を柱にした諸施策が計画・実施されています。

また、京都府では府北部の「海の京都」、府中部の「森の京都」、そして宇治田原町を含む府南部の「お茶の京都」に代表される、地域の特性をいかした地域づくり事業が進められるとともに、平成27年4月には日本遺産として、府南部地域12市町村の茶生産地としての長い歴史と素晴らしい景観が認定され、本町からは湯屋谷地域の茶畑や茶問屋の街並み、永谷宗円生家とその構成文化財とされるなど、「宇治茶生産の景観」に係る地域の資源・地域ブランド発信が府内各所で進められています。

このように、国や京都府が「観光」による地域づくりを強力に推し進めようとしている今こそ、「日本緑茶発祥の地」そして「宇治茶の一大産地」としての地域ブランドを強力に発信する絶好のチャンスであり、また新名神高速道路の開通や(仮称)宇治田原インターチェンジの設置など、まちの未来につながるダイナミックな環境変化を追い風として、地域の特性や魅力を最大限活かした「観光によるまちづくり」を始めめる好機が到来しています。

●住んでよし、訪れてよし

宇治田原町を取り巻くこれからの10年は、交通環境の変化を中心とした、まちの未来につながるダイナミックな環境変化が起こります。一方で、日本国内で盛んに言われている人口減少や少子高齢化の問題は、宇治田原町においても、このまま手を拱いているかぎり、深刻化するでしょう。想像してみてください。10年後、みなさんの住んでいる地域がいったいどのようになっているのかを。

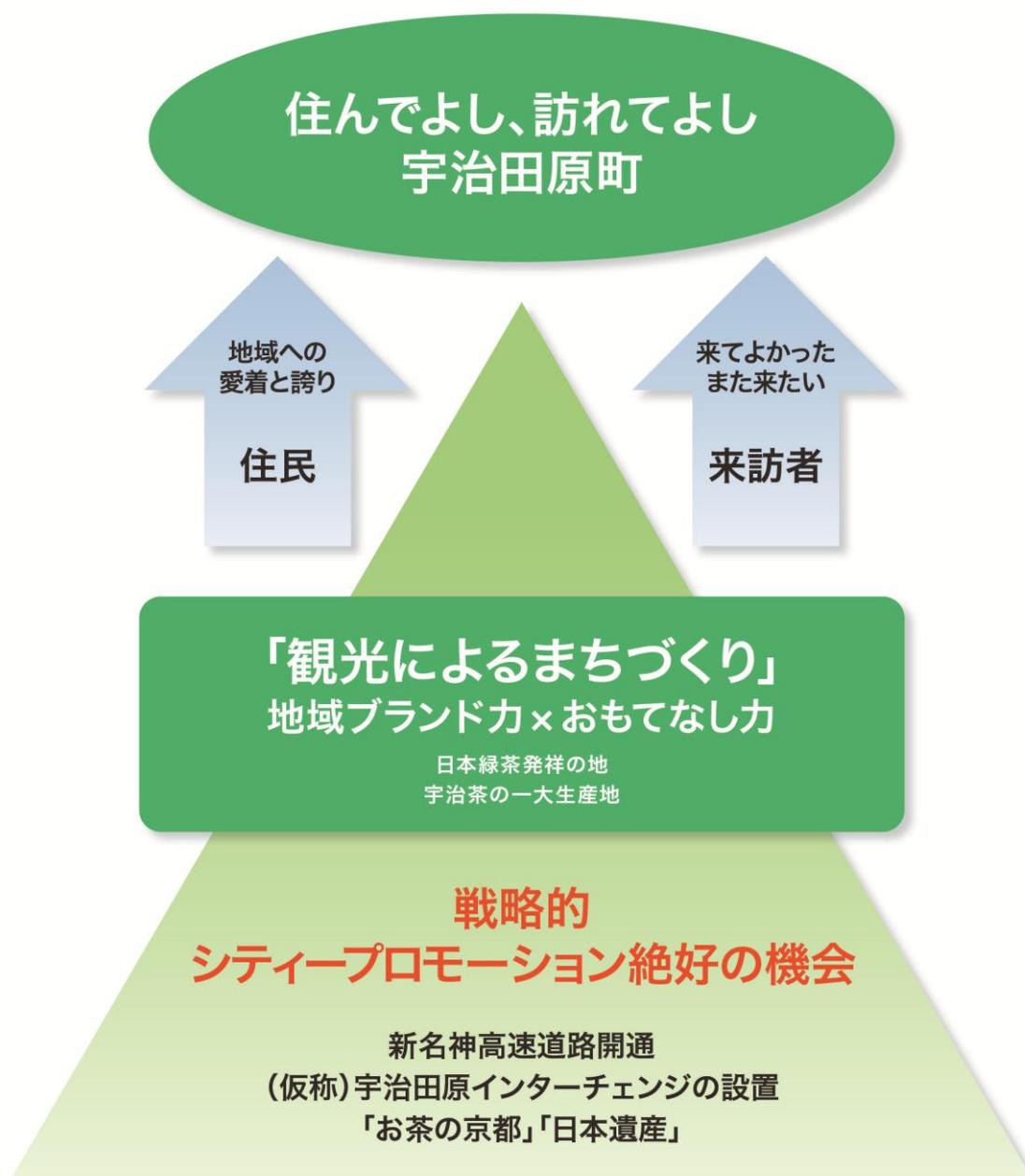
私たちは10年先20年先どんなまちにしたいかを「今」真剣に考える必要があります。そして出したひとつの答えが「観光」によるまちづくりです。

地域のみなさんが、地域の資源を活かしながら、来訪者をもてなし、交流を深める。こうした取り組みにより、地域には賑わいが生まれます。

そして古来より宇治田原町住民が持つ「おもてなし力」は、きっと来訪者に「来てよかった」「また来たい」と思ってもらえるはずです。すると今度はそうした来訪者に満足を与えることができる「時間」と「空間」を併せもつ自らの地域や人に、私たちは今まで以上に愛着を持ち、また誇りを抱くようになるでしょう。

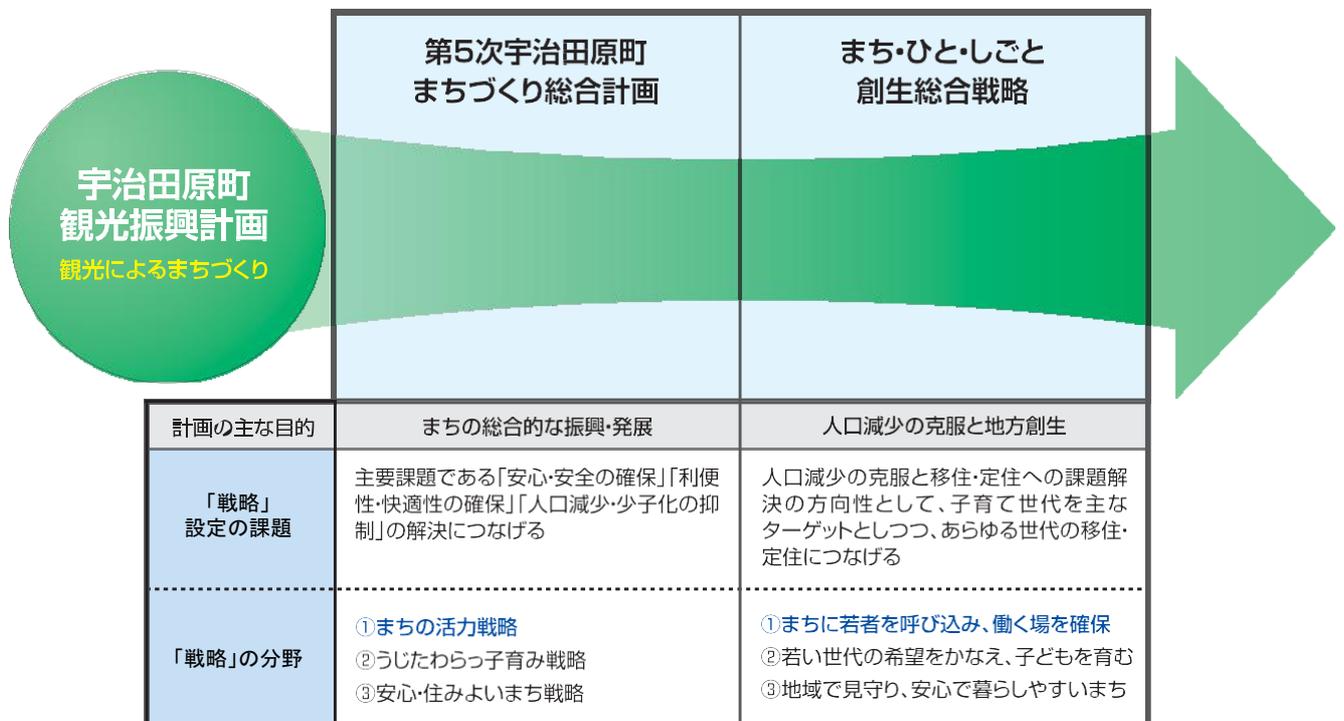
けっして来訪者の満足だけにとどまらない、そこに住む住民のみなさんの「笑顔」があり、これからも宇治田原町住民であり続けたいと思える地域を創る。

これが、「観光によるまちづくり」をはじめの好機の到来とともに、宇治田原町の観光振興計画を策定する目的であり、本計画はみなさんの「笑顔」の実現の指針となるものです。



(2)計画の位置づけ

宇治田原町のこれからのまちづくりの方向性を明らかにし、その確実な実現を総合的かつ計画的に進める長期的な指針である「第5次宇治田原町まちづくり総合計画」(平成28年3月策定予定)及び国が将来にわたって活力のある日本の社会を実現するために定めた「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、町が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成28年3月策定予定)との連携と整合を図っていきます。本計画では、2つのまちづくり計画の重要分野のひとつとして、「観光」によるまちづくりを進めていきます。



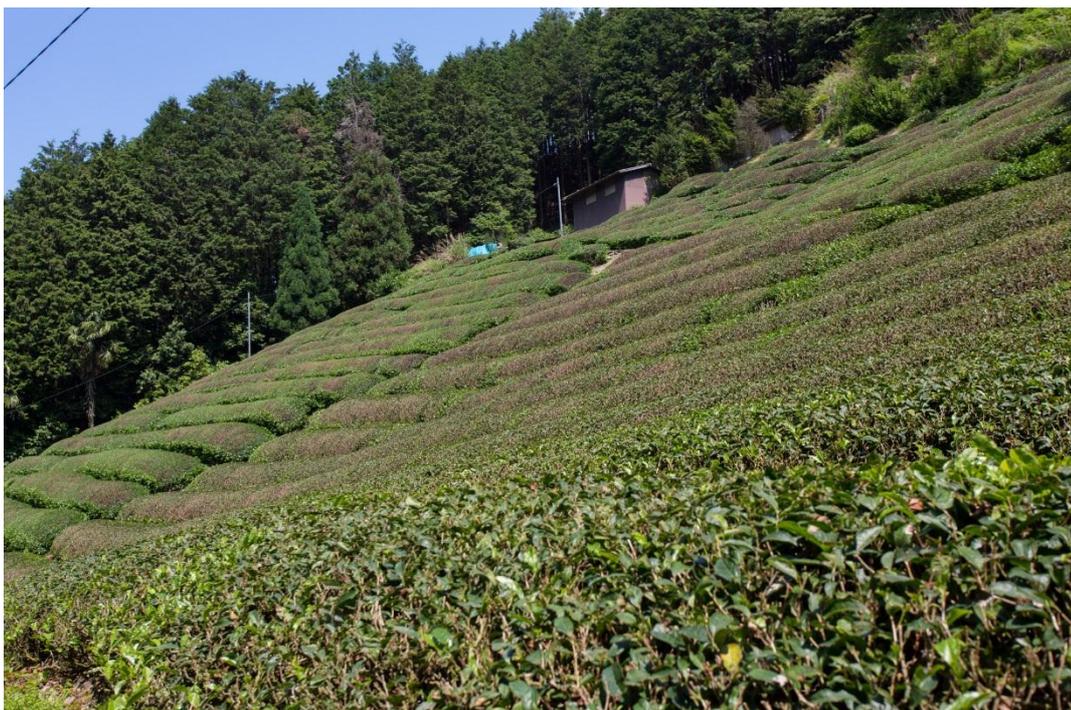
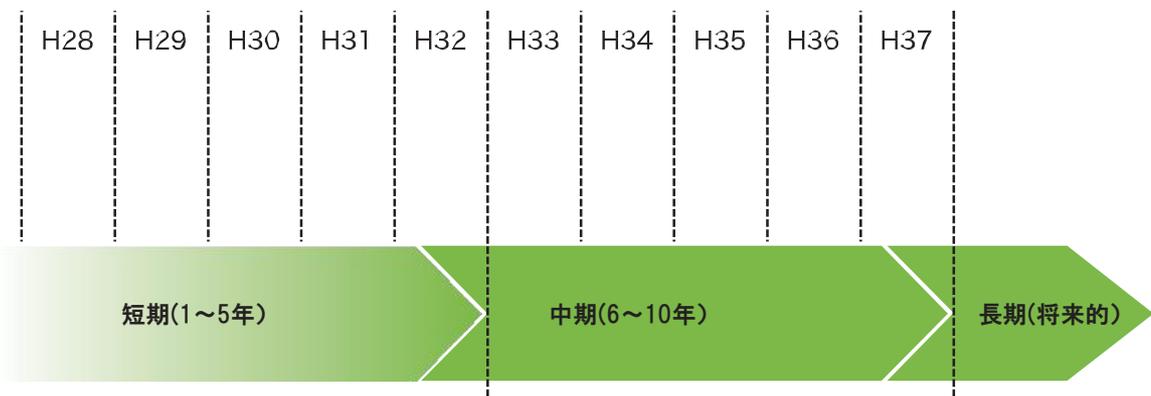
(3)計画の推進期間

本計画の期間は平成28年度から平成37年度の10か年とします。

具体的な施策については、将来的にどのようなまちになっていきたいか、4つの方針(後述)毎のイメージを持ちながら、それに向けて短期(1年～5年)、中期(6年～10年)を目安に実施していきます。

また、観光を取り巻く環境・情勢の変化にも的確に対応しながら、必要に応じて、計画の見直しを行います。

●計画の期間



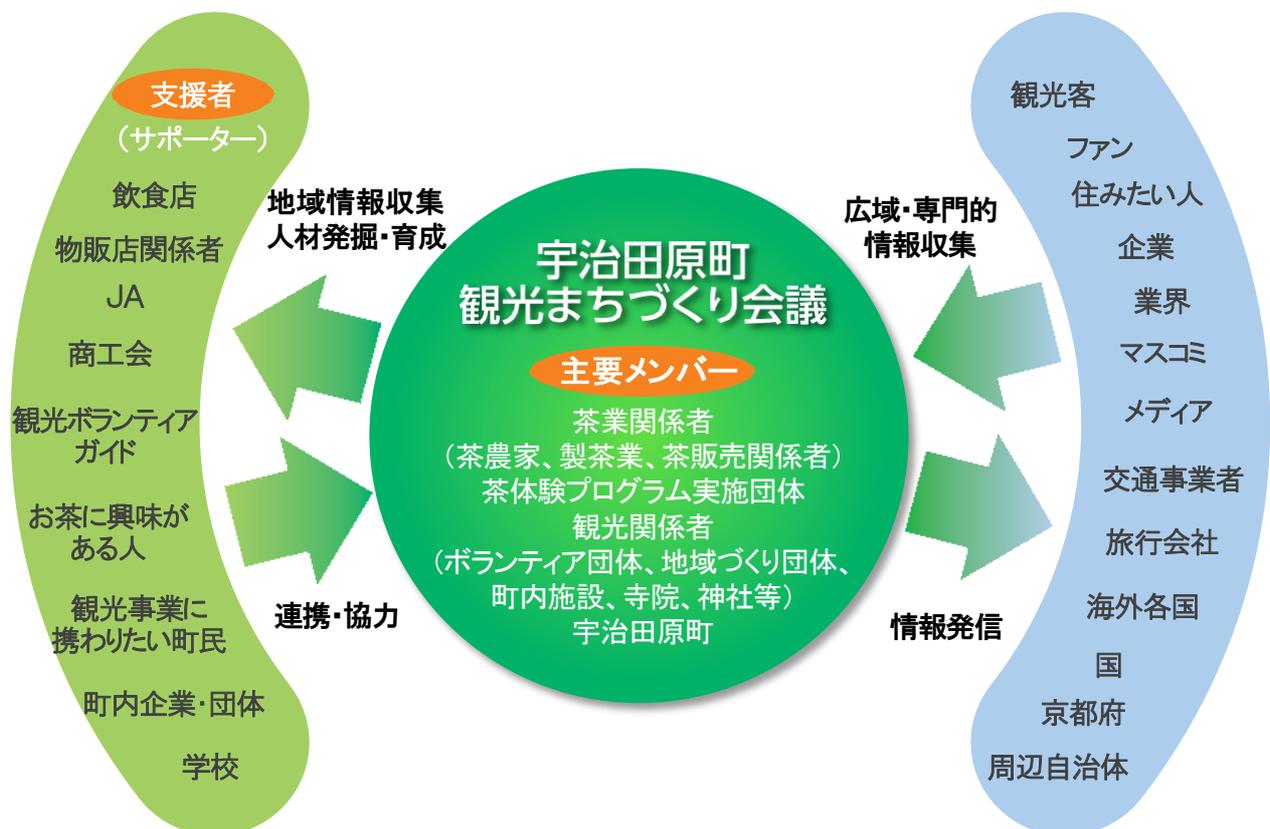
(4) 計画の推進体制

本計画は「観光」によるまちづくりを実践するための指針です。本計画の推進体制は、まちづくり団体、観光関係者、事業者、行政など多様な団体が、それぞれに得意分野を活かしながら、協働して取り組む体制づくりが重要です。

● 観光まちづくり会議

上記の団体あるいは実施する事業により、その分野で活躍されている関係者で構成し、構成団体間の緊密な連携・協力体制を敷く中で、新たな観光プロジェクトの実施や地域の情報を一元的に収集・発信するとともに、持続的な観光まちづくりにもっとも重要と考えられる「人材」の発掘、育成に取り組んでいくための組織として設置します。

また、こうした観光まちづくりにおける仕事は専門性・継続性が必要となり、加えて多様な団体が協働して事業を進めていくためには、一定の独立性の確保も必要となることから、早期に宇治田原町版「観光協会」の設置も検討しなければならないと考え、その準備段階における調査・研究も本会議の主要な業務となります。



●「観光まちづくり」に関する自治体の動向

日本国内では、少子高齢化、人口の減少の進行を見据えた、地域を維持・発展させるための、地域づくり活動が行われています。その中でも、従来は観光地として捉えられてこなかった地域でも、観光をツールとしたまちづくりが、行われています。

これは、観光客(来訪者)という外からの視点を入れた、「まちづくり活動」が、結果として、地域の活性化につながるからであると考えられるからです。

宇治田原町でも、地域に息づく暮らし、自然、文化、歴史、産業などあらゆる資源を最大限に活用し、住民と来訪者の交流を通して、地域住民中心に軸足をおいた観光まちづくりの実施が望まれます。

●計画の期間

近年、わが国における国内宿泊観光旅行回数や海外旅行者数は伸び悩みの状況にあります。国内観光については、職場旅行、修学旅行等の大型の団体旅行が減少する傾向にある一方で、家族との旅行が増加する傾向にあります。旅行の動機付けについても、物見遊山的な動機から、「異文化体験を通じて自分を成長させる」「旅行先の人々との交流を求める」「予定に縛られない時間を楽しむ」など、旅行動機は多様化しつつあります。宇治田原町の持つ資源は、このように多様化しつつある旅行者をひきつけられる資源であると考えられます。

●訪日外国人観光客の動向

2014年(平成26年)の訪日外国人旅行者数は、初めて年間1000万人を突破した前年を更に上回り、1341万人(対前年比29.4%増)となり、2年連続で過去最高を更新しました。近畿地方では、2011年、400万に達していなかった宿泊者数は、2014年には1000万人を突破し、外国人観光客が急増しています。

地域側の都合とは関係なく、地域への来訪者の中に外国人が占める比率は高まっています。宇治田原町でも、この状態を新たな交流の機会(チャンス)と捉えた、対応策作りが必要となります。

●「日本遺産」「お茶の京都」

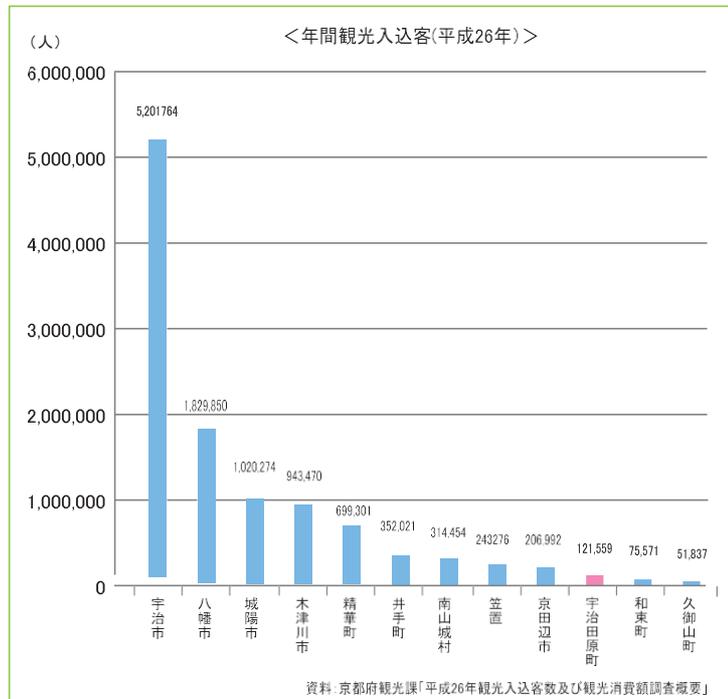
「日本茶800年の歴史散歩」～京都・山城が、平成27年度から新たに創設された「日本遺産」に認定されました。さらに京都府では、「宇治茶生産の景観」として世界文化遺産登録を目指す取組が進められており、今後、お茶を活用したさまざまな取組が「お茶の京都」事業として期待されています。

これらの動きと連携することが、宇治茶の生産地であり、日本緑茶発祥の地である、「宇治田原」を世界に向けて発信する絶好のチャンスです。

(1) 宇治田原町への来訪者の現状

●年間観光入込客

平成26年 年間観光入込客数は、約12万人あり、山城地域の市町村自治体との比較では低い位置にあります。

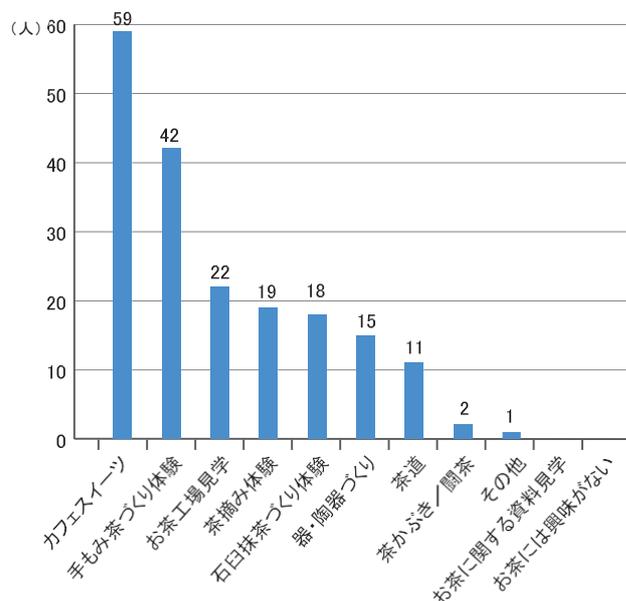


●来訪者の動向

宇治田原町への旅行者は、京都府内の他市町村からの来訪者が多く、ほとんどは自動車(マイカー)によるアクセスです。来訪者の訪問時行動は、観光資源を1か所訪問する資源単独訪問型で、町内の回遊性は少なく、滞在時間は短い傾向にあ

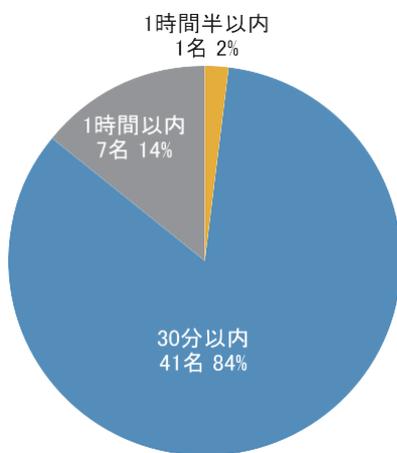
ります。町内消費単価も低く、来訪者の年齢は50から70代の高年齢層となっています。ただし、茶摘み体験やアウトドア体験では、20～30代も参加しています。また、茶関連の体験や飲食へのニーズは高いと見られます。

宇治茶についてどんなことに興味を持ちますか？(N=115/複数回答可)



宇治市への観光客に対する調査より(平成26年12月21日実施)

来訪者の町内における滞在時間(N=49)



宇治茶の郷への町外からの来場者調査より(平成26年12月11日実施)

(2) 宇治田原町内の資源の現状・課題

● 歴史・文化資源等

湯屋谷地区には青製煎茶法を完成させ、広くその製法を伝えた日本緑茶の祖永谷宗円の家(復元)があります。日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」～京都・山城の構成文化財としても認定されました。永谷宗円は宇治田原町茶業繁栄の礎を築いた人物として住民の誇りとなっています。

百人一首で有名な「奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の 声聞くときぞ 秋はかなしき」の歌を詠んだ猿丸大夫を祭神としている猿丸神社。この地は、大夫晩年隠棲の土地とも伝えられて、瘤、でき物取りの神様として信仰が厚く、毎月13日に行われる例祭「猿丸市」は大勢の人出で賑わっています。

奈良・東大寺の別当であった平崇上人によって正暦二年(991年)建立された禅定寺は、安置されている十一面観音立像などが国の重要文化財に指定されています。

くつわ池自然公園には豊かな自然の中にキャンプ場、テニスコートなどがあり、田原川沿いの遊歩道、やすらぎの道には約270本の桜が植えられ隠れた桜の名所となっています。

このように宇治田原町には魅力あふれる歴史・文化資源等が点在しています。しかしそれらを「つなぐ」ストーリーやルートが来訪者向けにアレンジされていません。

新たな観光視点でのルート開発が必要です。

● 体験プログラム・イベント

宇治田原町内では、4月下旬から5月中旬にかけて「茶摘み体験交流会」「永谷宗円家新茶まつり」などお茶関係の体験イベントは人気ですが、茶摘みの時期には盛んなお茶の体験イベントが、その時期以外に希薄で、新たにプログラム開発の工夫が必要です。

● 特産品・飲食

古くから日本有数のお茶の産地である町を代表する特産品「宇治田原茶」は清々しい香りと深い味わいで多くの人々を魅了しています。また冬の味覚「古老柿」は年の瀬の贈答品として欠かせない存在であり、柿を乾燥させる干し棚は「柿屋」と呼ばれ、初冬の風物詩となっています。

近年では新しい特産品として平成7年から「みず菜」が生産されるようになり、宇治田原町は高品質で安定的に提供できる「京のブランド産地」に認証されています。

また国道307号線沿いのJAが運営する「宇治茶の郷」では年中無休で地域の農産物を販売するとともに、飲食施設として「宇治田原茶」とスイーツを店内で楽しむことができます。

しかし、来訪者が立ち寄り、特産品を「味わう」「買う」施設は少なく、満足度向上や滞在時間延長のためにも、より一層の施設の充実が必要です。

● 交通

町内は鉄道路線網がないため、バス交通と自動車による移動となっています。
2023年に新名神高速道路の(仮称)宇治田原インターチェンジが設置される予定です。
また、国道307号線のバイパスとして宇治田原山手線が計画されています。
しかし点在する地域資源をつなぐ移動手段としての2次交通がなく、検討整備が必要です。

● 組織や人材

宇治田原町には、現在、さまざまな形で地域づくりを担っている人々がいます。

「21お茶のふるさと塾」では、お茶摘み体験ツアーを5月～6月にかけて実施しています。土日には約500人の動員があり、お茶摘み娘衣装が人気です。石臼をひく体験、手もみ体験、おいしいお茶の入れ方やお茶の飲み方等の講座も開いています。

また、平成20年発足のボランティアガイドの団体「宇治田原町いいとこ案内人の会」が、歴史案内、お茶体験や紅葉の時期の案内を行っています。

「永谷宗円さんの里づくり会」も、永谷宗円の生家を中心に活動しています。来訪者の方からは、地元の人との世間話を楽しいとの評価を受けています。

茶業関係者や農業関係者、JA、商工会などの取組も行われています。

このように宇治田原町では、個々でがんばっている人々がいますが、今後は、人員の増員やジャンルを超えた連携が望まれます。

また、関係者だけではなく、地域住民の参画による人材発掘と育成が必要です。

JAが運営する「宇治茶の郷」では、新鮮な地元農産物を買求めに遠方からの来訪者が絶えません。また商工会が開催している商工祭では毎年町内外から多くの人が集まり、また茶業者関係者や農業関係者とともに開催する「宇治田原ふるさとまつり」では、ここでしかあじわうことのできない茶名人のお茶接待、最近ではお茶をふんだんに使ったスイーツバイキングも人気を博しています。

このように宇治田原町では、個々にがんばっている人、団体がありますが、今後は人員の増員や若返り、ジャンルを超えた連携が望まれます。また関係者だけでなく、地域住民がイベントの計画段階から参加・参画することによる人材発掘やその育成も必要です。

(3) 住民の意見

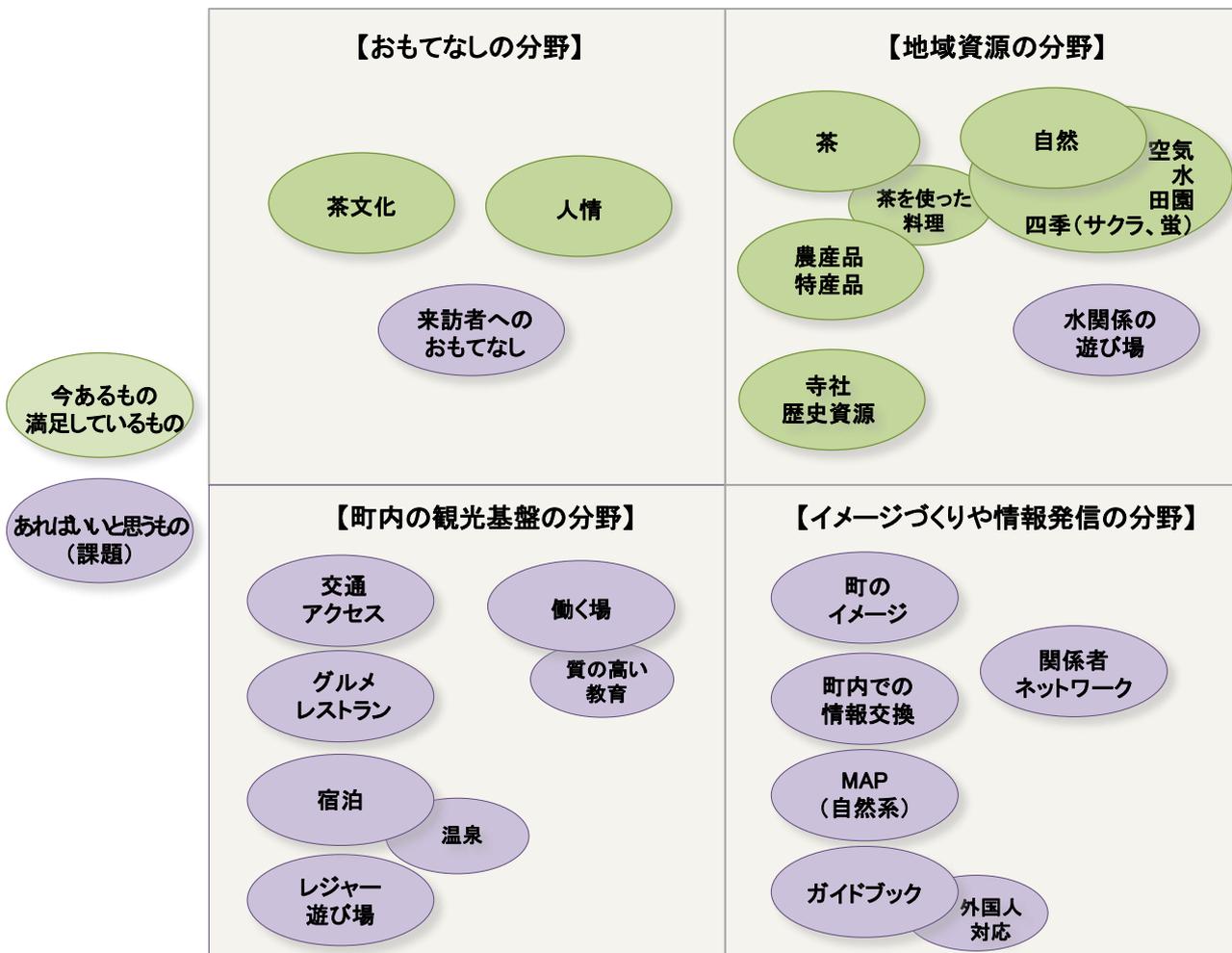
宇治田原町の住民を主な参加者とする「宇治田原町の観光によるまちづくりフォーラム」(平成27年11月17日開催、参加者36名)の中で実施した「まちの魅力発掘ワークショップ」では、「宇治田原のここが楽しい、こんなところに満足している」と、「もっとこんなことが、宇治田原にあったらいい、できたらいい」の二つの方向で、活発な意見交換が行われました。

その結果、「おもてなし」分野では、「茶文化に根差したおもてなしの心」「人情」が、「地域資源」分野では、「茶」「農産品・特産品」「自然」「寺社や歴史資源」が、それぞれ「今すでにある宇治田原のいいところ」であるとの意見が多数でした。

一方、「もっとこんなことがあればいいのに」という希望(現状の課題)の項目では、「交通・アクセスを便利に」「来訪者も含めて楽しめる施設(食・宿泊・レジャー)」に回答が集中しました。また、情報発信においても、もっとさまざまな発信やツールが必要ではとの意見が多く出ました。

今後は、これらの意見をうまく観光振興事業に取り込んで、住民参加での事業推進が望まれます。

ワークショップの意見まとめ



(4) 宇治田原町の強み・弱みと観光まちづくりの方向性

宇治田原町の強み

- ・ 日本緑茶発祥の地
- ・ 茶に関する様々な産業や資源の集積
- ・ 茶摘み体験やイベントの存在
- ・ 歴史や文化に関わる資源の存在
- ・ 農村や里山的な景観の存在
- ・ さまざまな形で観光や交流を支える人々や団体の存在。
- ・ 京都や大阪等の大都市圏からの近さ

外的要因

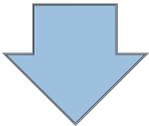
- ・ 新名神高速道路の開通、宇治田原インターチェンジの設置
- ・ お茶の京都の動き(日本遺産、世界遺産含む)
- ・ 旅行者ニーズの多様化(旅先での交流など)
- ・ 訪日外国人の増加

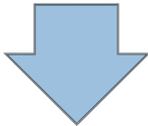
宇治田原町の弱み

- ・ 町内の資源をつなぐプログラムや2次交通がない。
- ・ 茶摘み時期以外の観光プログラムが少ない。
- ・ 町外からの交流や観光に関して担う組織がない。
- ・ 来訪者に対して飲食や土産ものを販売する店舗数が少ない。
- ・ 観光や交流を支える人たちへの住民の新たな参加が少ない。

外的要因

- ・ 新名神高速道路開通による、幹線道路通行量の減少。
(高速道路から、降りてきてもらうことが必要になる)
- ・ 近隣自治体の観光への取組が先行している。

強みを  活かし

弱みを  克服

進むべき方向性

- ・ 「茶」に関することを主軸としながら、宇治田原町の持つ「歴史・文化」「農村・里山」を加え、来訪者との交流資源として磨き上げることが重要。
- ・ 交流資源として磨き上げるためには、それぞれの資源と来訪者が交流できるための基盤、物語、体験プログラムの整備と、それに携わる住民や団体の一層の増員や連携が必要。
- ・ 宇治田原町へのアクセスの改善や「お茶の京都」事業の推進に合わせて広く情報発信することが望まれる。
- ・ 宇治田原町を来訪目的地として、強く印象付ける、個性的な資源づくり、基盤整備と情報の発信が望まれる。

●観光振興計画の展開イメージ

宇治田原町の「観光によるまちづくり」の進む方向を「観光推進力づくり」「観光魅力の創出」「観光の基盤整備」「情報発信」の各方針別に分類し、短期、中期、長期の期間別の達成したいイメージを示しました。各方針がそれぞれ連動しながら進むこと、継続されていることが重要なのは言うまでもありません。



観光振興計画の方針	短期イメージ (1～5年)	中期イメージ (6～10年)	将来イメージ
＜基本方針①＞ 観光推進力づくり ＜テーマ＞ おもてなしマインドの発揮！	<ul style="list-style-type: none"> ○住民が観光によるまちづくりの目的を理解しています。 ○地域の良さを住民が知っています。 ○来訪者と住民との交流が深まっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で、おもてなし人材がしっかり活躍しています。 ○町内外に宇治田原ファンがいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民は宇治田原町に愛着と誇りを持っています。 ○町外の宇治田原ファンが宇治田原町に移住します。(交流から定住へ)
＜基本方針②＞ 観光魅力の創出 ＜テーマ＞ お茶に触れる！ 里山・田舎・歴史文化を体験する	<ul style="list-style-type: none"> ○宇治田原町らしいお茶関連の体験プログラムが人気です。 ○農業体験や里山を使ったアウトドア活動も活発に行われています。 ○来訪者が必ず買い求めるお土産や、宇治田原町でしか味わえない味があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宇治田原町で泊まって、田舎暮らしを体験出来るツアーが人気です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本だけでなく世界でも「cha」と言えば「Ujitawara town」。 ○お茶+α(里山・田舎・歴史文化)の宇治田原町の魅力が確立されています。
＜基本方針③＞ 観光の基盤整備 ＜テーマ＞ 体験・時間・空間の環境を整える！	<ul style="list-style-type: none"> ○町内には、デザインが統一された分かりやすいサイン(看板)が設置されています。 ○すべての来訪者が安心して、宇治田原町を楽しんでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新名神高速道路を利用した遠方からの来訪者が増えています。 ○新たな観光施設が人気です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町内の観光施設では、来訪者の満足度が高い環境が整っています。
＜基本方針④＞ 観光情報発信 ＜テーマ＞ イメージづくりと情報発信の強化！	<ul style="list-style-type: none"> ○「お茶の京都」の取組により、京都府南部地域への来訪者が増加しています。 ○宇治田原町に興味を持った人は、インターネットあるいはパンフレット等で各種イベント情報が簡単に入手出来ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宇治田原町へ1年を通じて来訪者があります。 ○宇治田原町に興味を持ち、来訪意欲が高まっている人が増えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの人に、宇治田原町の魅力がしっかり認知され、「宇治田原町＝観光」のイメージが確立されています。

計画に対応した人材育成

(1) 観光振興計画の方針(4つの方針)

● 観光振興計画の方針①

観光推進力づくり

→ おもてなしマインドの発揮!

宇治田原町が、持続的に観光でのまちづくりを推進していくためになにより大切なものは「人」です。宇治田原町の住民が、もともと持つ茶文化に根づく「おもてなしマインド」をいかんなく発揮してもらえるような体制づくりや、新たな「おもてなし人材」を発掘するために、まずは地元のみなさんに宇治田原町を知ってもらう、好きになってもらう、仲間をつくってもらう仕掛けが必要です。

プレーヤー： 住民、地域、町内の事業者・団体、行政
 サポーター： 町外からの観光客、宇治田原町ファン

■ 短期（1～5年後）のありたい姿・イメージ

- 住民が観光によるまちづくりの目的を理解しています。
- 地域の良さを住民が知っています。
- 来訪者と住民との交流が深まっています。

施策例

- おもてなしマインドを磨いてもらうための観光講座を開催。
- 小学校と連携し茶文化を学ぶきっかけとして「お茶漬け給食」を実施。
- 町内で実施する各種イベント(田原祭、ふるさとまつり、婚活事業、食のイベント等)における町内観光資源の活用・連携を促進。
- 町観光まちづくり会議の設置により、観光分野で活躍する人・団体を組織化し、情報交換や情報発信、人材の育成を推進。
- 地元の小・中学生、高校生に対して「観光」を学んで実践する機会を創出。(観光案内や通訳等)

■ 中期（6～10年後）のありたい姿・イメージ

- 地域で、おもてなし人材がしっかり活躍しています。
- 町内外に宇治田原町ファンがいます。

施策例

- 宇治田原町ファンの組織化。
- 町外の宇治田原町ファンに対する宇治田原町への移住啓発。

■ 将来のありたい姿・イメージ

- 住民は宇治田原町に愛着と誇りを持っています。
- 町外の宇治田原ファンが宇治田原町に移住します。(交流から定住へ)

(1) 観光振興計画の方針(4つの方針)

● 観光振興計画の方針②

観光魅力の創出

→ お茶に触れる！里山・田舎・歴史文化を体感する

宇治田原町湯屋谷の茶農永谷宗円が緑茶の製法を編み出してから約280年。「日本緑茶発祥の地」は、宇治田原町だけが持つ唯一無二のブランドです。また、豊かな自然に囲まれ、歴史的・文化的にも重要な寺社、史跡が点在し、「田原祭(三社祭)」などは近隣でも類を見ない規模、歴史を誇るなど、町内には磨けば光る地域資源が数多く存在します。

そこで、こうしたブランドや地域資源を、昨今の旅行者のニーズである「触れる」「体験する」「食べる」などの視点を加え、磨き上げを行い、観光魅力の新たな創出を図ります。

プレーヤー：茶業関係者(茶農家、製茶業、茶販売関係者)、行政
観光関係者(ボランティア団体、まちづくり団体、寺院、神社等)
サポーター：飲食店、物販店関係者、JA、商工会等、お茶に興味のある人、
観光事業に携わりたい住民、町内事業者・団体

■ 短期 (1～5年後) のありたい姿・イメージ

- 宇治田原町らしいお茶関連の体験プログラムが人気です。
- 農業体験や里山を使ったアウトドア活動も活発に行われています。
- 来訪者が必ず買い求めるお土産や、宇治田原町でしか味わえない味があります。

施策例

- 着地型観光プログラム(お茶・里山・田舎・歴史文化)の充実及び新たな観光資源、名物の掘り起こし・開発を支援するため助成制度を創設。
- 緑茶発祥の地としての文化やお茶漬け文化等を体感できる拠点整備やイベントの開催を支援。
- 民宿(簡易宿所)の運営や空き家を活用した宿泊施設の整備を支援。
- 大学等との連携により、観光資源のブランド化、新たな観光資源の創出を促進。

■ 中期 (6～10年後) のありたい姿・イメージ

- 宇治田原町で泊まって、田舎暮らしを体験出来るツアーが人気です。

施策例

- 宇治田原町の本物の文化を体験出来る滞在型プログラムを開発。

■ 将来のありたい姿・イメージ

- 日本だけでなく世界でも「cha」と言えば「Ujitawara town」。
- お茶+α(里山・田舎・歴史文化)の宇治田原町の魅力が確立されています。

(1) 観光振興計画の方針(4つの方針)

● 観光振興計画の方針③

観光の基盤整備

→ 体験・時間・空間の環境を整える

来訪者に「来てよかった」「また来たい」と思ってもらうには、「おもてなしマインド」だけでは不十分です。宇治田原町で心安らぐ体験、ほっとする時間、さわやかな空間を味わっていただくには、景観や街並みへの配慮や多様化するニーズにも対応した環境整備が必要です。

プレーヤー： 行政・民間事業者

サポーター： 飲食店、物販店関係者、JA、商工会等、宇治田原町に縁のある事業者

■ 短期（1～5年後）のありたい姿・イメージ

- 町内には、デザインが統一された分かりやすいサイン（看板）が設置されています。
- すべての来訪者が安心して、宇治田原町を楽しんでいます。

施策例

- 永谷宗円生家の来客用駐車場を整備し、パーク&ウォーク化を推進。
- 主要観光施設のトイレ整備及びバリアフリー化を実施。
- 交通事業者と連携し、バス停や車両等に観光案内機能（看板掲示、音声案内等）を整備。
- 茶文化等を体験できる新たな観光施設の設置に向け、民間活力の導入を検討。

■ 中期（6～10年後）のありたい姿・イメージ

- 新名神高速道路を利用した遠方からの来訪者が増えています。
- 来訪者は町内の色々な場所を楽しみ、滞在する人も増えています。

施策例

- (仮称)宇治田原インターチェンジに隣接する集団茶園や町有林等を活用し、宇治田原町ならではの独創的な空間や四季折々の風景を演出。
- 湯屋谷地域での温泉開発の調査研究。
- スポーツイベント等を招致するためサイクリングコースやトレイルコースを整備。

■ 将来のありたい姿・イメージ

- 町内の観光施設では、来訪者の満足度が高い環境が整っています。

(1) 観光振興計画の方針(4つの方針)

● 観光振興計画の方針④

観光情報発信

→ イメージづくりと情報発信の強化

本計画策定にあたっての各種調査で、宇治田原町の認知度は総じて低く、「日本緑茶発祥の地」というせっかくのブランドも府外ではほぼ認知されていません。しかし、逆に言えば今後しっかりとしたイメージ戦略の上に効果的な情報発信を行えば、宇治田原町を知ってもらい、そして訪問するという行動に結びつくはず。今後は宇治田原町が持つ自然・空気・水・文化・人が奏でる独特のリズムが感じられる時間や空間「グリーン茶(ティー)リズム」をコンセプトにイメージを醸成し、タイムリーかつ的確に情報発信を行います。

プレーヤー： 行政・交通事業者・観光関係者

サポーター： 京都府及び周辺市町村、甲賀市、滋賀県、奈良県等

■ 短期（1～5年後）のありたい姿・イメージ

- 「お茶の京都」事業の取組により、京都府南部地域への来訪者が増加しています。
- 宇治田原町に興味を持った人は、インターネットあるいはパンフレット等で各種イベント情報が簡単に入手出来ています。

施策例

- 町観光まちづくり会議の設置により、観光分野で活躍する人・団体を組織化し情報交換や情報発信、人材の育成を推進。
- わかりやすい観光情報に特化したポータルサイトの構築。
- 観光案内のマップやガイドブックの充実。(インバウンドにも対応)。
- 全国のハートの形を持つ市町村と観光分野で連携。
- 「緑茶発祥の地」としてのイメージ戦略のため、永谷宗円生家を中心に各種メディアを積極的に招致。

■ 中期（6～10年後）のありたい姿・イメージ

- 宇治田原町には1年を通じて来訪者があります。
- 宇治田原町に興味を持ち、来訪意欲が高まっている人が増えています。

施策例

- 年間を通じて、明確なターゲット別の観光プロモーションを実施。
- 新たな集客イベントを実施。

■ 将来のありたい姿・イメージ

- 多くの人に、宇治田原町の魅力がしっかりと認知され、「宇治田原町＝観光」のイメージが確立されています。

(2) エリア別の方向性

観光振興計画を進めていく時に、宇治田原町内のエリア毎に、その特徴に合わせた観光振興を考えることは大切です。それぞれのエリアに、観光振興の中で期待される役割を考え、その実現のために、地域住民と観光振興に携わる人々や団体等との相互理解による、観光によるまちづくり活動が望まれます。

また、その活動の拠点となる場所や施設の設置についても、エリアの特性にあわせた形での整備が望まれます。

【お茶のビジネスエリア】

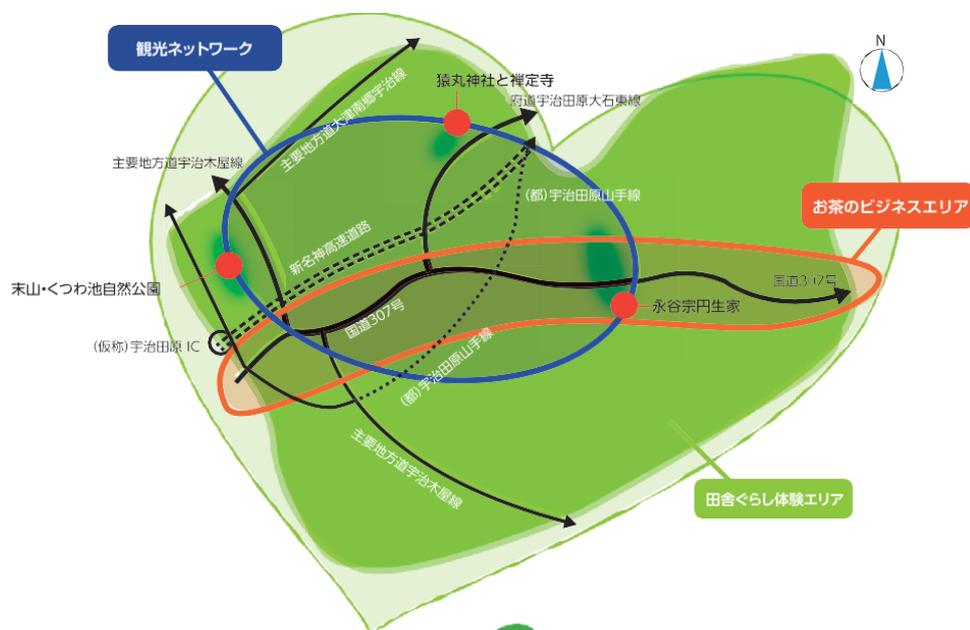
東西に走る国道307号沿いや、(仮称)宇治田原インターチェンジ付近は、交通量も多く、物販・飲食施設もあることから、来訪者の消費活動の中心となります。町への経済効果を大きくするためには、さらなる施設の整備、特産品や名物メニューの品揃えの充実等が望まれます。また、観光推進のための拠点の設置にもふさわしいエリアと考えられます。

【田舎暮らし体験エリア】

幹線道路から入り込む各集落は、宇治田原町の良さを知る住民と来訪者の交流を深める観光魅力の創出に欠かせないエリアです。お茶にふれ、自然や水、空気を感じる里山・田舎暮らしが体験できるエリアとして、そのプログラム開発や滞在(民宿<簡易宿所>)や空き家活用による宿泊等を目的とした施設の整備検討エリアでもあります。

【観光ネットワーク】

現在でも来訪者が多い資源をつなぎ、ネットワーク化することで、来訪者の町内での回遊性を高めることを目指します。「お茶のビジネスエリア」「田舎暮らし体験エリア」の整備と併せて、ネットワークを拡大や複層化することで、宇治田原町の面としての魅力づくりを目指します。



(3) 計画の目標と進捗管理について

● 計画目標の設定

- 本計画に掲げる事業を進めることにより、現状約12万人の観光入込客数を20万人とする目標を設定します。
- また、観光入込客数(来訪者数)と来訪者による消費額を把握し、来訪者による経済効果を算出します。経済効果は、観光客数(来訪者数)×消費単価×自己調達率(観光客が消費したもの・ことが、どれくらい町内で調達されたものであるか)により計算します。
- 観光客(来訪者)がもたらす経済効果を把握することは、今後の、町としての財政運営を考える上で重要な指標のひとつとなります。

● 進捗の管理

- 各方針毎に、進捗をはかる指標(数値)を設定します。
- 「ストーリーの整備」「プログラムの数」「住民の参画意識」「住民の参画人数」やそれぞれの項目が「継続して実施されていること」等を指標にし、具体的な実行計画毎に設定していきます。
- この指標の進捗を適切にチェックする機関を別途設け、具体的な事業活動において、企画立案(Plan)→実施(Do)→検証・修正(Check)→改善(Action)という、いわゆるPDCAサイクルをまわしていくようにすることが大切です。

方針	指標の考え方	指標	数値化の手法
観光推進力づくり	住民が、観光推進について、どれだけ関心を持ち、参画したのか。	・住民の参加意識	・住民の参加者数 (延べ数と実数) ・住民の参画意識 (参画希望者、定住意識)
観光魅力の創出①	お茶に触れる体験についてのプログラムが、どれだけ充実したのか。	・茶体験プログラムの充実 ・茶関連商品の開発数	・プログラム数、プログラム開催数、参加者数、参加者の満足度 ・茶関連商品の商品数、売上
観光魅力の創出②	里山・田舎・歴史文化体験についてのプログラムが、どれだけ開発できたのか。	・里山・田舎・歴史文化体験、ストーリーの開発と観光、プログラムの開発 ・茶以外の名物メニューや商品の開発	・ストーリー数、プログラム数、プログラム開催数、体験者数、体験者の満足度 ・メニューや商品の数、売上
観光の基盤整備	体験、時間、空間の受入環境整備がどれくらい進んだのか。	・環境整備の件数 ・来訪者の評価	・環境整備件数 ・来訪者の利用数、満足度
観光情報発信	情報がどれくらい町外に発信されたのか。	・情報発信件数 ・掲載件数	・情報発信の件数 ・掲載された情報の媒体価値換算
全体	各方針毎に、計画は進捗しているか、継続されているか。	・計画の進捗率 ・計画の継続率	・方針毎に進捗率を評価 ・方針毎に継続されているかを評価

用語	解説
観光立国の実現 (P2)	日本政府(国)では、力強い日本経済を立て直すための成長戦略の柱として、世界に誇る魅力あふれる観光立国の実現に向けて強力に施策を推進している。 観光は、海外からの旺盛なインバウンド需要の取り込みによって交流人口を拡大させ、地域を活性化させる原動力となる。また、国内観光の振興も極めて重要である。外国から訪れる観光客のみならず、日本人自身も、より一層旅行に出かけ、全国各地を人々が往来し、各地で旅行者と住民との交流が生まれる仕掛けをつくることが期待されている。
インバウンド (P2)	本来の意味は「入ってくる、内向きの」という意味の英語。対義語はアウトバウンド。 観光の中では、外国人旅行者を自国へ誘致すること。海外から日本へ来る観光客を指す外来語。 日本政府(国)では、平成14年から始まった「デジタル・ジャパン・キャンペーン」を開始し、積極的な訪日外国人客の誘致が進められている。訪日外国人による消費＝インバウンド消費は、平成26年の日経ヒット商品番付で、東の横綱となるなど、最近は広く取り上げられている。
海の京都 (P2)	京都府による、京都府北部の地域振興構想。京都府北部(福知山市・綾部市・宮津市・京丹後市・舞鶴市・伊根町・与謝野町)を、古代より大陸との交流の窓口として栄え、多くの神話の舞台になった「もうひとつの京都」＝「海の京都」と位置付け、地域活性化と観光振興を目指して、さまざまな事業が実施されている。
森の京都 (P2)	京都府による、京都府中部の地域振興構想。芦生の森や美山かやぶきの里を有する京都府中部地域(亀岡市、南丹市、京丹波町、綾部市、福知山市、京都市右京区京北)において、我々の生命と文化を育ててきた「森」について多面的な角度からとらえ、豊かな自然と文化に触れ、活かし、未来に受け継げるよう林業の活性化や森の文化の発信など、貴重な京都の「森」が地域を元気にする大きな力となることを目指し、各種事業が推進されている。
お茶の京都 (P2、P7、P13、P17)	京都府による、京都府南部の地域振興構想。茶生産地として最も長い歴史を有し、素晴らしい景観を形成するとともに、現在も最高品質の緑茶を生産している京都府南部地域(宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・木津川市・久御山町・井手町・宇治田原町・笠置町・和束町・精華町・南山城村)において、宇治茶をテーマにお茶生産の美しい景観維持やお茶産業の振興、お茶文化の発信などを進められている。
まち・ひと・しごと 創生総合戦略 (P4)	人口減少と地域経済縮小を克服するために、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことを目標として、国と地方の連携により進められている政策。まち・ひと・しごと創生総合戦略は、市町村がその目標を達成するために策定する戦略のこと。国による「まち・ひと・しごと創生法」が平成26年に制定されている。
日本遺産 (P2、P7)	地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定する。 ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。 第1回(平成27年度)では、全国18のストーリーが認定され、京都府南部(宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、宇治田原町、和束町、南山城村)をエリアとした「日本茶800年の歴史散歩」が選ばれている。
地域の資源 (P2)	地域にある魅力のこと。狭い意味では、地域の特産品や観光名所を指すが、現在では、地域が持つ様々な特産品や産業、観光名所だけではなく、歴史・文化資源、自然資源、また地域の人やコミュニティなど、広く地域内に存在するものを地域資源と捉えている。
地域ブランド (P2)	生活者が認識するさまざまな地域イメージの総体である。特産品や観光地など実体のあるものを地域ブランドと言うばかりではなく、“食べ物おいしいそう”とか“海がきれい”などのイメージを連想させる地名や地形その他無形の資産を地域ブランドとすることもあり、その概念は広がっている。
おもてなし力 (P2)	客に対して心のこもった待遇や歓待やサービスをする「おもてなし」をできる能力のこと。四国のお遍路におけるお接待など、奉仕の精神に基づくものが日本的な文化として知られる。

用語	解説
戦略的シティー プロモーション (P3)	シティ・プロモーションは地域再生、観光振興、住民協働など様々な課題について、街が取り組む諸活動のこと。町おこし、定住促進、観光振興、特産品や地域産業の振興、情報発信、知名度の向上などの諸活動があるが、最近では、地域住民に自分の住み地域への愛着度を高めることも大きな目標となっている。戦略的シティープロモーションとは、それらの諸活動を、それぞれ単独で考え、実行するのではなく、諸活動を統合し、全体としての考え方を創った上で、計画的に進めていくことを表している。
協働 (P6)	同じ目的のために、複数の主体が、対等の立場で協力して共に働くこと。「まちづくり」においては、自治体や住民をはじめ、地域産業関係者、様々な地域資源の関係者などが、対等な立場で、共に議論し、共に活動することが大切と考えられる。
年間観光入込客数 (P8)	観光資源(観光地、観光関係施設、観光関係イベントなど)に、観光客が訪問したのべ数を年間累計した数値。日本国内においては、市町村単位で集計したものが、都道府県単位で公表されている。
交流資源 (P9)	「地域外の人」と「地域の資源」や「地域の人」が交流するきっかけとなる事象のこと。観光資源だけではなく、広く地域内にある資源を表す。
パーク&ウォーク方式 (P16)	町内に車(バスや自家用車)で訪問した客が、どこかに車を駐車し、その後は歩いて観光するスタイルのこと。同様に二つの交通手段の組合せとしては、紅葉時期の京都市域などで、車での来場を市郊外の駐車場までにして、その後は公共交通機関(電車など)で観光地に向かってもらう「パーク&ライド方式」などがある。
ポータルサイト (P17)	インターネットの利用において、各ウェブサイトにアクセスするために、検索をはじめとする、様々なコンテンツを有する、有力なサイトのこと。ポータルサイトは、検索エンジン、ウェブディレクトリ、ニュース、オンライン辞書、オークション、メールサービス、マップなどのサービスを提供し、利用者の便宜を図っている。(日本国内においては、Google や Yahooが有力なポータルサイト)
グリーン茶(ティー) リズム (P17)	本計画内の観光情報発信のために、宇治田原町のイメージを一言で伝えるコンセプトとして、観光振興計画策定のための専門部会の議論でできた造語。農業体験を主体とした観光である「グリーンツーリズム」や、農村や山林、自然などの景観や資源、生活を体験することを主体とした観光である「グリーンライフツーリズム」、宇治田原町の独特な資源である茶畑の「グリーン」と、空間や時間の流れである「リズム」を組み合わせられて考えられた。宇治田原らしい「景観」「空間」「時間」を「体験」できることを表している。

年月日	項目	場所/会場	備考
平成26年10月	現地調査・地域人材調査	宇治田原町内	●調査員による観察及びヒアリング調査 ・町内12箇所(回)、15名を対象に実施
平成26年10月～12月	宇治田原町内観光客動態調査	宇治田原町内	●町外からの観光客を対象に、以下の箇所でアンケート調査を実施。 ・「ふるさとまつり」(総合文化センター) 回答数:50名 ・「猿丸市」(猿丸神社) 回答数:51名 ・「宇治茶の郷」 回答数:49名
平成26年11月10日	第1回宇治田原町観光振興計画策定委員会	宇治田原町役場	●委員委嘱 ●正副委員長の選出 ●協議 ①宇治田原町観光振興計画の策定方針について ②宇治田原町の現状及び課題について ③自由討論等
平成26年11月27日	第1回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	宇治田原町役場	●部会委員紹介 ●正副部会長の選出 ●協議 ①宇治田原町観光振興計画の策定方針について ②宇治田原町の現状及び課題について ③第1回策定委員会会議概要について
平成26年12月21日	宇治市における宇治田原町イメージ調査	宇治市内	●宇治橋にて、観光客を対象にアンケート調査を実施。 ・回答数:115名
平成27年1月29日	第2回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	総合文化センター	●協議 ①宇治田原町観光動向調査(アンケート)結果報告について ②宇治田原町の現状等(強み・弱み)について ③その他
平成27年2月16日	第2回宇治田原町観光振興計画策定委員会	宇治田原町役場	●協議 ①宇治田原町観光動向調査(アンケート)結果報告について ②宇治田原町の現状(課題)とめざすべき姿について ③そのための具体策について
平成27年4月14日	第3回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	禪定寺	●協議 ①宇治田原町観光動向調査(アンケート)の修正について ②宇治田原町観光振興計画の方向性について
平成27年5月10日	宇治田原町観光動向調査・茶摘体験交流会 参加者調査	宇治田原町内	●町外からの観光客を対象に、以下の箇所でアンケート調査を実施。 ・「永谷宗平生家」(新茶まつり) 回答数:33名 ・「末山・くつわ池」 回答数:51名 ・「茶摘体験交流会」 回答数:116名
平成27年6月22日	第4回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	宇治田原町役場	●協議 ①観光振興計画の方向性について(振り返り)②観光動向調査(追加分)の結果について③観光振興計画の具体案について④インターネット調査案について⑤宇治田原町プロモーション案について
平成27年8月6日	第5回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	宇治田原町役場	●協議 ①観光振興計画(素案)について ②WEB調査案について
平成27年8月26日	第3回宇治田原町観光振興計画策定委員会	宇治田原町役場	●協議 ①宇治田原町観光振興計画(素案)について
平成27年10月29日	第6回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	宇治田原町役場	●協議 ①観光振興計画(素案)の修正点について ②観光によるまちづくりフォーラムの開催について
平成27年11月16日	宇治田原町の観光によるまちづくり フォーラム	総合文化センター	●講演:「宇治田原町と観光のまちづくり」 (奈良県立大学地域創造学部教授 麻生 憲一 氏) ●宇治田原 まちの魅力発掘 ワークショップ ●参加者36名
平成27年12月8日	第4回宇治田原町観光振興計画策定委員会	宇治田原町役場	●協議 ①宇治田原町観光振興計画(最終素案)について
平成27年12月25日～ 平成28年1月15日	宇治田原町観光振興計画(素案)について パブリックコメント(住民意見募集)	宇治田原町内及び 宇治田原町HP	●観光振興計画(素案)に関する、町民からのパブリックコメントを募集 (コメント件数=4件)
平成28年2月8日	第7回宇治田原町観光振興計画策定委員会 専門部会	宇治田原町役場	●協議 ①パブリックコメント(住民意見募集)の結果について ②宇治田原町観光振興計画原案について
平成28年2月10日	第5回宇治田原町観光振興計画策定委員会	宇治田原町役場	●協議 ①パブリックコメント(住民意見募集)の結果について ②宇治田原町観光計画原案について ③答申案について
平成28年2月23日	答申	宇治田原町役場	●宇治田原町観光振興計画策定委員会 麻生委員長、森田副委員長により、町長に答申

宇治田原町観光振興計画策定委員会設置要項

(設置)

第1条 宇治田原町観光振興計画（以下「観光振興計画」という。）を策定するにあたり、関係機関及び関係団体との連絡及び調整を図るとともに、住民の意見を反映させるため、宇治田原町観光振興計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 策定委員会は、観光振興計画の策定について、町長の諮問に応じて協議及び検討を行う。

(組織)

第3条 策定委員会は、15名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 各種団体の代表
- (3) 観光事業の運営その他観光に関し識見を有する者
- (4) 町の職員
- (5) その他町長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 策定委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、前条の委員の中から互選により定める。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 策定委員会は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 策定委員会は、委員の過半数の出席をもって開くことができる。
- 3 委員長は、必要に応じて関係者の出席を求めることができる。

(部会の設置)

第7条 策定委員会の目的を達成するための補助機関として、「宇治田原町観光振興計画策定専門部会」（以下「専門部会」という。）を設置することができる。

- 2 専門部会は、次に掲げる事項を所掌する。
 - (1) 宇治田原町観光振興計画原案の策定
 - (2) その他必要事項の調査及び検討
- 3 専門部会は、町長が別に指名した部会員をもって組織する。

宇治田原町観光振興計画策定委員会設置要項

(専門部会の会議)

第8条 専門部会に、部会員の中から互選により定めた部会長及び副部会長を置く。

2 専門部会は、部会長が招集し、議長となる。

3 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(庶務)

第9条 策定委員会及び専門部会の庶務は、産業振興課において処理する。

(補則)

第10条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この要項は、平成26年8月1日から施行する。

宇治田原町観光振興計画策定委員会

【順不同／敬称略】

1号委員	奈良県立大学地域創造学部教授 【委員長】	麻生 憲一
2号委員	宇治田原町商工会長 【副委員長】	森田 市治
	宇治田原町茶盛組合長	辻井 基博
	宇治田原町農業委員会長	大川 吉平
	宇治田原町森林組合長	上田 徳藏
	J A 京都やましろ宇治田原町支店長 (平成26年度) (平成27年度)	谷 光也
		藤田 明正
湯屋谷区長	谷村 和男	
3号委員	京都府総務部自治振興課参事	藤岡 栄
	京都府商工労働観光部観光課長 (平成26年度)	田中 照彦
	観光振興課長 (平成27年度)	南本 尚司
4号委員	宇治田原町理事兼総務課長	山下 康之
	宇治田原町理事兼財政課長	小西 基成
	宇治田原町理事兼建設課長	光嶋 隆
事務局	宇治田原町産業振興課長	木原 浩一
	宇治田原町産業振興課地域資源活用室参事	下岡 寛史
	宇治田原町産業振興課商工観光係長	谷出 智

宇治田原町観光振興計画策定委員会専門部会

【順不同／敬称略】

【部会長】 2 1 お茶のふるさと塾 塾長	谷口 郁男
【副部会長】 宗円さんの里づくり会 代表	谷村 稔
宇治田原いいとこ案内人の会 代表	中村 俊機
猿丸神社 宮司	岡 兵庫
禅定寺 住職	久保 敬童
郷之口生産森林組合長（末山・くつわ池自然公園指定管理者）	潮見 博司
ともに創るまちづくり推進協議会運営委員	光島 善正
旅行ビジネス研究学会 会員	谷口 茂弘
西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部営業課観光推進室長	辻本 建
京都京阪バス株式会社 運輸部次長兼観光課長	美馬 伸至
株式会社 J T B 西日本 観光開発プロデューサー	石村 英之
一般財団法人南都経済研究所 主席研究員	丸尾 尚史
京都府山城広域振興局農林商工部商工労働観光室長 （平成26年度）	沢尾 俊和
（平成27年度）	住山 貢

事務局	宇治田原町産業振興課長	木原 浩一
	宇治田原町産業振興課地域資源活用室参事	下岡 寛史
	宇治田原町産業振興課商工観光係長	谷出 智

宇治田原町観光振興計画
～観光によるまちづくり～

策定 平成28年3月
宇治田原町

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町荒木西出10番地
宇治田原町 産業振興課
TEL 0774-88-6638(直通)
FAX 0774-88-3231

